

ikeeco

2025
vol.48

“住む人が主役の家づくり”に、もっとファンを！



30年の歩みが紡いだ、
循環する暮らしのかたち



人・自然・未来をつなぐ家づくり





人と自然が 循環する暮らし

人々の健康と豊かな生活、そして自然環境の改善をテーマに建築業者の枠を超えた多様な活動が注目を集める、株式会社アトリエデフ。サーキュラーエコノミー（循環経済）を意識した同社による自然素材を活用した暮らしづくりの提案は、本社を構える長野のみならず山梨や関東圏にわたり多くの施主の共感を誘う。今回は、ひとと環境にやさしい家づくりを一貫し続けてきたメンバーの一人である戎谷さんに、同社の歩みと今、そして未来についてを伺う。



株式会社アトリエデフ

「日本の山を守り育てる」を理念に、30年以上にわたり自然素材と国産材を用いた注文住宅を手がける。人と自然が循環する暮らしの実現を目指し、再生可能エネルギーの活用や地域資源の再利用など、環境に配慮した取り組みを積極的に推進。2019年には、環境省主催の第7回グッドライフアワードで「サステナブルデザイン賞」を受賞。

<https://a-def.com/> _____



戎谷 純一 えびすたにじゅんいち
株式会社アトリエデフ 専務



NPO 法人エコラ倶楽部

アトリエデフ代表・大井明弘氏が理事長を務めるNPO法人「エコラ倶楽部」では、年間を通じて健全な森づくりに取り組んでいる。地域住民との交流を深め、森と人とのつながりを大切に、次世代へ豊かな自然を引き継ぐことを目指している。

<https://a-def.com/> _____



自然共生埋設工事

家を建てることは、その土地の地下を流れる空気や水脈に少なからず影響を及ぼす。アトリエデフの環境事業部「環と環」では、周囲の木々や生物など、あらゆる植生物が心地よく呼吸できる土中の環境を育み、家と住まい手さんの暮らしをより豊かにするための多様な取組を行っている。その一つが、土壌改良を目的とした「自然共生埋設工事」で、近隣に放置された竹林の竹を有効活用することも担っている。

<https://a-def.com/about/life> _____





人と自然を結ぶ家

アトリエデフは、1996年の設立当初から、合板やビニールクロスなどの新建材によって引き起こされるシックハウス症候群などの健康被害、そして建築による環境負荷の問題に強い関心を持ち続けてきました。「安心・安全に住める家をつくりたい」と考えるきっかけとなったのは、創業者が会社員時代に建てた新築の家で、ご家族がアトピー性皮膚炎を発症した経験からです。

現在、アトリエデフの家に住まわれている多くの方々は、都会から離れ、自然に寄り添う丁寧な暮らしを求めて地方への移住を選ばれた方々です。

同社が開催する暮らし体験イベントには、自社発行のフリーペーパーやSNSでの情報発信を通じて、毎回各地から多くの参加者が集まっています。建材や工法といった技術面だけでなく、「どう暮らすか」といったライフスタイルそのものへの提案にも共感をいただいています。

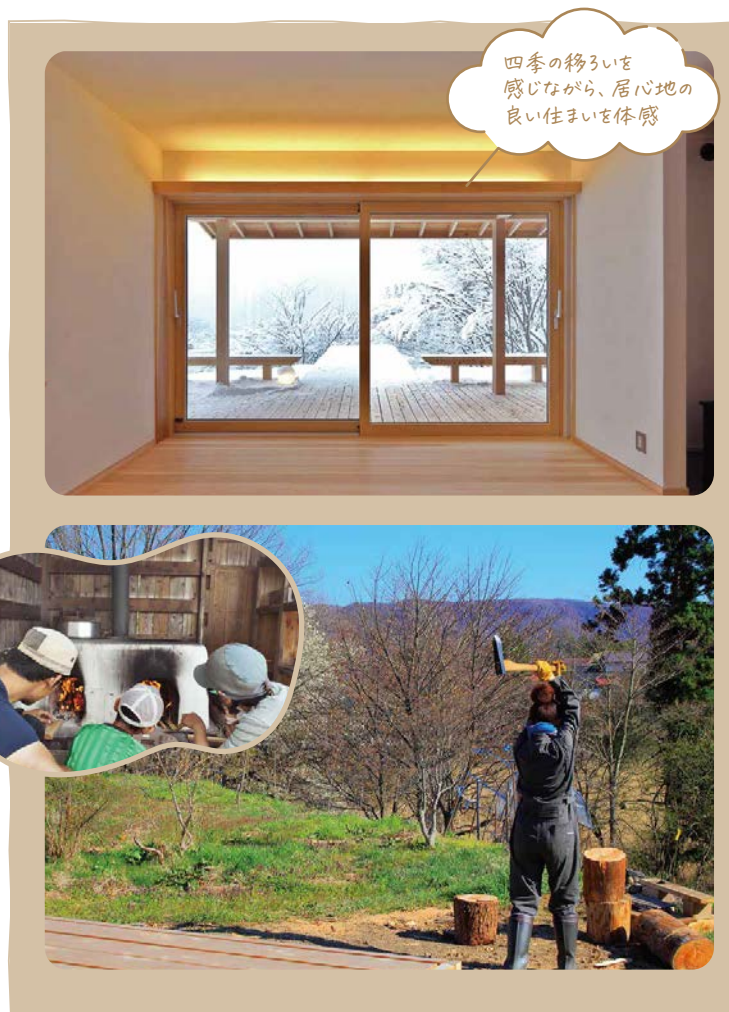
初回の打ち合わせでは、間取りや建物のご希望を伺うというよりも、「ここで畑ができればいいですね」など、お茶を飲みながら外でどんなふうに暮らしたいかをお話することを大切にしています、と専務の戒谷さんは語ります。

約30年にわたるアトリエデフの歩みのなかで、時代とともに合理化が進むなかでも、手刻みによる木組み加工や土壁、漆喰仕上げなど、日本の伝統的な建築技術の継承にも力を入れてきました。また、地球温暖化の進行による自然環境の変化と向き合いながら、地域と共にさまざまな取り組みを進めています。たとえば、長年取引してきた地元の土壁職人が後継者不足に直面した際には、技術継承のために積極的に協力し、現在もその活動を続けています。

このように、周囲の自然環境を大切に整えながら、日本の伝統を守り、国産材や自然素材にこだわった家づくりを貫いてきました。その取り組みは少しずつ周囲の共感を集め、ここ20年ほどは、年間30～40棟の新築・リノベーションを提供し続けています。



職人による
日本の伝統的な
「手しごと」が不可欠



四季の移ろいを感じながら、居心地の良い住まいを体感

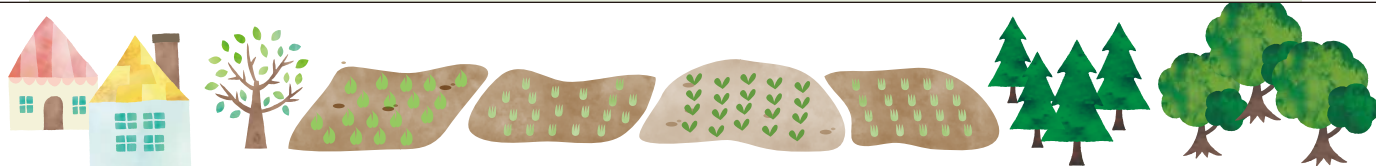




窓の外にどのような「暮らし」をイメージするかがポイント

アトリエデフの

自然と寄り添う暮らしづくり



安心安全な自然素材と、 自然と寄り添う暮らし

お家をご検討されている方には必ず「どのような暮らしがしていきたいか」というお話をお聞きしています。そこには、“お家を建てる”だけではなく、お家はあくまで“暮らし”の一部であって、これから暮らすお客様の気持ちが一番大切だと考えているからです。実際にモデルハウスへ足を運んでいただき、自然素材の心地よさや暮らしづくりについて体験していただきながら、自然素材の特性やメンテナンス方法、移住先の地域での暮らし等、さまざまなお話をします。そうして、一緒に考えながら暮らしづくりがスタートし、お家の柱となる木と一緒に伐採しに行ったり、土壁や漆喰を塗ったりとお施主様と一緒に携わりながら家づくりが進みます。お家が完成し、暮らし始めたお客様からは暮らしごとで“毎日が忙しいけど楽しい”というお話やお家の心地よさについて満足感を伝えてくださることもあります。



土地に合わせた
作物のつくり方を模索
するように、住まいの居心地も
時間をかけて育む



春には薪を作り、畑仕事が始まり、夏は草刈りや育てた野菜でご飯を作ったり、冬は薪ストーブで暖をとりながらスープを作ったりと、できる範囲でゆっくりと、暮らしを楽しんでいる住まい手さんが多いです。そうやって住まい手さんと一緒にデザイン面も含めて独自スタイルの確立をじっくりと積み重ねてきた同社が、現在の家づくりに用いる代表的な材料が、国産材、土壁、そして木繊維断熱材シュタイコです。(同社広報)





未来に伝えるプロジェクト

アトリエデフでは、吹き込み式の木繊維断熱材「シュタイコゼル」を採用しています。これまでも、断熱材は自然素材にこだわり、国産の木質繊維ボードや羊毛断熱材を中心に使ってきましたが、軸組工法の構造にも対応できるシュタイコゼルを導入することで、断熱施工の確実性がさらに高まりました。

実際、冬には氷点下になる長野県や山梨県のような地域でも、薪ストーブを1日1回、夕方に焚くだけで翌朝まで暖かく過ごせた、という住まい手さんの声も届いています。これは、蓄熱性の高い土壁と、隙間なく充填されたシュタイコゼルとの相性がとてもいいと考えられます。「空気がとても柔らかく感じられるんです」と、専務の戎谷さんも話します。温度や湿度だけでなく、匂いや肌で感じる空気の質の違いも、住まい手の皆さんが実感されているとのこと。

また、シュタイコは解体時に産業廃棄物とならず、再利用が可能です。これはアトリエデフが大切にしてきた理念とも合致します。

創業当初から、使用する材料の成分について丁寧に説明を行ってきましたが、シュタイコを採用したことで、施工だけでなく素材選びの観点からも、よりよい影響が生まれています。ドイツのシュタイコ本社を訪問し、森林の計画的な管理や製造過程、低エネルギーでの生産、廃棄時の再利用の仕組みについて詳しい説明を受けたことで、素材に対する安心感が深まりました。この経験をきっかけに、アトリエデフでは「未来に伝えるプロジェクト」と題し、家づくりで使われるすべての材料について、廃棄時にも必要な情報が分かるよう、住まい手の皆さんや将来関わる方々に伝えていく取り組みを進めています。今後も、このような取り組みをさらに深めながら、持続可能な家づくりを担う建築事業部と、竹林整備などの課題に取り組む環境事業部「環と環」が連携し、地域や環境、教育、福祉、農業の分野にも活動の幅を広げていく予定です。

アトリエデフの自然素材を活かした家づくりの提案は、単なる建築にとどまらず、今後も多くの人々の関心と共感を集め続けていくことでしょう。



土壁と組み合わせた家では、40℃を超える夏場でも扇風機1台で赤ちゃんが熟睡しているくらい涼しいという体感の声も



放置竹林の整備で伐採した竹は土壌づくりにも活用

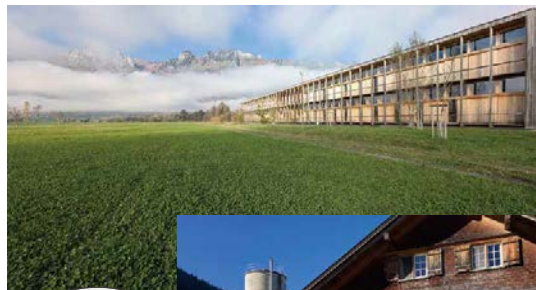


エコバウ建築ツアー2025

開催
決定!!

ドイツ・オーストリア・スイスを巡り、最新のエコ建築を巡る「エコバウ建築ツアー」を今年も開催いたします。テーマは『木の循環と建築』、エコロジー先進国ヨーロッパにおける最新の「地域材と建築の在り方」を体感できる視察プランとなっております!

昨年開催のエコバウ建築ツアー2024の様子を、株式会社彩代表の大坪宏記様に寄稿いただきホームページにて紹介しておりますので、そちらもぜひご覧ください。



お申し込み
受付中



シュタイコゼル吹き込み施工見学会

随時
開催中!!



吹き込み断熱材シュタイコゼルの施工見学会を全国各地にて行っております。断熱性能はもちろん、吸音や調湿効果もある木繊維により、施工前後での室内空間の変化を体感できる機会となっております。ご興味のある方はイケダコーポレーションまでお問い合わせください。



シュタイコプロフェッショナルインタビュー

WEB
掲載中!!



木繊維断熱材シュタイコ公式ホームページでは、ikecoでのご紹介やセミナー登壇などいただいた各分野での「プロフェッショナル」から、木繊維断熱材についてそれぞれの視点からのインタビューを掲載しております。すでにシュタイコを採用いただいている方も、これから検討されている方も、ぜひご覧下さい。今後も順次更新予定です。

第54回店舗総合見本市 JAPAN SHOP2025

ご報告



講習会
随時開催予定!!



2025年3月4日(火)～7日(金)に東京ビッグサイトにて開催されたジャパンショップ2025に「スイス粘土壁材・レームブツ」の展示で参加いたしました。今回のメインテーマは「循環する社会へ、革新の技術とデザイン」とのことで、生産エネルギーが低く廃棄物を出さない「粘土」という素材、それを生かした様々な意匠が可能なレームブツに、多くの方が足をお運びいただきました。4月には第4回レームブツ施工講習会も開催され、関東近郊だけでなく新潟・仙台・大阪と様々な地域からご参加いただき、これから日本各地で施工ができるよう着々と準備中です。今後も随時講習会を開催予定ですので、ご興味のある方はぜひお問い合わせください。

